

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>ラインベタウンシップの4校の小中学校において、子どもたちの学習環境が改善した。</p> <p>事業開始前、木造簡易校舎は必要な修復がされず、壁や床は穴が空いている危険な状態であったが、鉄筋及び鉄骨構造の校舎が完成し、子どもたちは十分なスペースで安全に学習できるようになった。また、教室は壁で仕切られ、机椅子や棚、白板／黒板などの家具も備え付けられているため、周囲の音に邪魔されることなく、子どもたちは集中して学習でき、教師は効果的に授業を行なえるようになった。また、トイレ・井戸が十分でない学校においては新規に設置することで、衛生的な学習環境を整備した。</p> <p>建設した校舎及びトイレ、井戸、学校設備品を含めた学校環境を自ら維持管理していけるよう、対象校の既存の学校運営委員会 (School Management Committee、以下 SMC) を再編し、運営能力強化研修を行った。学校施設・設備の維持管理計画を策定するなど、本事業で整備した学習環境を学校が維持できる体制を整えた。維持管理計画には、児童・生徒が日々行う清掃活動や欠陥を発見した時のレポートライン、資金調達計画などが含まれており、将来大規模な修繕等が必要になった際にも SMC が自ら対応できる基盤が整ったと言える。</p> <p>さらに、対象4校では住民に対して教育啓発ワークショップを行い、住民と SMC が協力して教育に関する課題に取り組み、教育環境を改善する活動を始めている。SMC や教員以外の住民も含めて、村の教育に関する課題を考え、学習環境を改善していく体制を整えた。またこのワークショップにより、親が子どもの教育の重要性を理解し、子どもを学校に通わせられるよう啓発した。親は教育の重要性を理解する一方、子どもを学校に通わせたくても、経済的な理由で通わせられない世帯もあった。このような世帯には、SMC が住民に融資をして返済時の利子を維持管理費としてプールするシステムがあり、この融資システムを通じて経済的なサポートをしている。また、栄養改善研修で配布した種子から栽培した野菜の一部を市場で売買し、現金を得ることもできる。</p> <p>また、児童・生徒たちが栄養状態を改善し、健康に勉強を継続できるよう行った保健衛生栄養改善研修の後、手洗い場に石鹸を設置する世帯や、飲み水用のカップを清潔に保つ世帯が増加しているなど、住民の保健衛生に関する習慣が改善しているのを確認した。また、本研修内容と配布した種子を用い、多くの世帯が家庭菜園を実施しており、児童・生徒の栄養状態の改善に対する熱心な姿勢を見ることができた。</p> <p>上記のとおり、ハードおよびソフト面からのアプローチを通して、包括的に教育環境の改善を行うことにより、対象地におけるカレン州少数民族の児童・生徒が継続的に充実した環境で教育を受けられる基盤を整備した。</p>
(2) 事業内容	<p>カレン州ラインベタウンシップのシンク中学校、シンクカインズ小学校、ヤキバン小学校、ヤチャ小学校の4校において以下の活動を実施した。</p> <p>(ア) 教育啓発ワークショップ</p> <p>中学校1校で1回、小学校3校で4回ずつ教育啓発ワークショップを行ない、各村の教育に関する課題について議論し、原因の分析を行なった。また、小学校3校では、ワークショップ参加者の中からファシリテーターを各校2名ずつ選出し、ファシリテーターが他の住民に対してワークショップを行った。課題に対する対応策に関しては、ワークショップ参加者と</p>

	<p>SMC が中心となり改善活動を実施した。</p> <p>(イ) 学習環境の整備</p> <p>①学校校舎建設：4 棟（全 4 校、各校 1 棟ずつ） ②トイレ建設：3 棟（シンク中学校、シンクカインズ小学校、ヤチャ小学校、各校 1 棟ずつ） ③井戸建設：1 基（ヤチャ小学校） ④学校設備品の提供：全 4 校 ⑤学校用教育必需品の配布：全 4 校 ⑥SMC の能力強化研修：全 4 校 ⑦水タンク設置：4 基（全 4 校、各校 1 基ずつ） ⑧小学校の既存井戸修繕：1 基（ヤキバン小学校） ⑨学校設備品の追加提供：1 校（シンク中学校）</p> <p>小中学校 4 校での校舎・トイレ・井戸建設に加え、4 校に水タンクの設置、ヤキバン小学校の既存井戸の修繕、シンク中学校への学校設備品の追加供与を行なった。</p> <p>水タンクはポンプとジェネレーターを使い、地上約 4 メートルに設置されたタンクに水を溜め、タンクからは重力でトイレや手洗い場に水が供給される仕組みである。</p> <p>また、2018 年 7 月下旬のモンスーンの影響による豪雨により、ミャンマー各地で洪水が発生し、本事業の事業地であるパアンでも 8 月末時点で約 12,000 人が避難を余儀なくされる事態となった。この豪雨とそれにともなう洪水の影響により、ヤキバン小学校の既存井戸の屋根が崩れる危険性が生じたため、当該井戸の修繕を行なった。</p> <p>さらに、シンク中学校では既存校舎の修繕と学校家具の調達住民が自ら行う計画であり、同校舎の改善活動は本事業に含めていなかったが、上記の豪雨と洪水の影響により、住民らが同校舎で不足している学校家具を工面することができなかつたため、学校設備品の追加供与を行った。</p> <p>(ウ) 保健衛生・栄養改善研修</p> <p>シンク中学校において 2 日間の保健衛生研修を、他の 3 校において半日 x5 日間 x2 回の保健衛生研修および半日 x5 日間 x1 回の栄養改善研修を実施した。保健衛生研修では、衛生的な生活を実践する大切さとその方法、病気・けが・感染症の予防と対処方法、経口補水液の作り方などを学んだ。栄養改善研修では、3 大栄養素、身近な栄養価の高い食材の調理方法や自家消費用の野菜栽培方法、有機肥料の作り方・施肥方法などについて学んだ。また、研修を受けた参加者から保健推進員を選出し、得た知識と技術を他の住民へ広げる目的で、保健推進員による保健衛生・栄養啓発ワークショップを実施した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) 教育啓発ワークショップ</p> <p>【裨益者数】直接裨益者：373 名（男性 151 名、女性 222 名） / 間接裨益者：2,198 名（村の住民、児童、保護者）</p> <p>【成果 1】住民の教育への意識が高まり、教育の重要性を理解する。</p> <p>事業実施後の、住民の教育への関心度を測る教育関心度調査では、住民の 81%が子どもの教育に関心を示した。「今、最も必要なことは教育だと考えています。もし教育により十分な知識が得られなければ、お金を稼ぐこともできず、人々から尊敬もされません。」という裨益者の言葉にも象徴されるように、教育啓発ワークショップが、住民の教育への関心の高まりに一定の寄与をしたと言える。</p>

【成果2】住民自ら継続して教育環境を改善していけるようになる。

各校において、学校の周囲を囲むフェンスの設置、教員用家屋の建設、会議室の建設、学校環境美化のための植樹、学校給食の実施など、想定よりも多くの改善活動が実施され、住民が一丸となって学校環境改善に取り組む姿勢が見られた。また、すぐに対応できなかった課題の中には、SMCで引き続き議論され、改善したものもある。例えば、ヤチャ小学校では教員不足が課題の一つにあがっていたが、教育局に手紙を送り続けた結果、担当者がモニタリングに訪れ、2018年6月から2名の教員が追加され、十分な人数の教員を確保することができた。これらの事例からも、住民自らが継続して教育環境を改善していく力を身に着けたことがうかがえる。

(イ) 学習環境の整備

校舎・トイレ・井戸建設および学校設備品・学校用教育必需品の提供

【裨益者数】4校の生徒388人および今後入学する生徒、教員27人

【成果】校舎・学習設備が整備され、児童・生徒が安全に集中して学習できるようになる。

子どもたちは、隣のクラスの授業の音や外からの風雨などの影響を受けない教室で、安全に学習できるようになった。各校の教室には、中学校で40セット、小学校で32セットの机と椅子、教員用の机と椅子、棚、黒板あるいは白板も設置されている。当初計画にはなかった水タンクの設置、既存井戸の修繕、学校設備品の追加供与を行なうことで、同じ学校内の一部の教室で机・椅子が不足している状況を回避し、対象校の全生徒の学習環境を整備することができた。

SMCの能力強化研修

【裨益者数】住民と児童計48名（各校12名ずつ）

【成果】 SMCの学校運営能力が強化される。

本研修の平均出席率は86%であった。研修での、校舎建設後の維持管理計画や学校環境改善のための活動に関する議論を通し、SMCのルール決めや定期的なSMCの開催、話し合ったことの記録付けなど体系的なSMC運営と学校の維持管理を目指した維持管理計画書が各校のSMCで作成された。計画書には、毎月各世帯から学校環境の維持管理費として定額を徴収したり、SMCが住民に融資をして返済時の利子を学校維持管理費のためにプールするといった、学校維持管理費を工面するための資金調達計画も含まれている。事業実施前には形骸化し、機能していないSMCもあった中で、各校から当初の想定を上回る綿密な計画書が提出され、各SMCの学校運営能力は大幅に強化されたと言える。今後、計画書の内容が遂行され、継続的な維持管理がなされるか、モニタリングを継続していく。

(ウ) 保健衛生・栄養改善研修

【裨益者数】直接裨益者：160名（各校40名x4校）/ 間接裨益者：2,198名（村の住民、児童、保護者）

【成果】研修に参加した保護者が児童の健康状態が改善するために必要な保健衛生や栄養の知識・技術を身につけ実践する。

研修に参加した保護者の92.6%が研修後の理解度を測るテストで正答した。研修前後に224世帯に実施した保健衛生習慣に関する調査では、研修後、手洗い場に石鹸を設置する世帯が39%から58%に増加し、飲み水用

	<p>のカップを清潔に保つ世帯が37%から64%に増加した。また、研修修了数か月後に行なった調査では、配布した種子を使って家庭菜園を実践したり、トイレを修繕し掃除及び手洗い用の水を常備してより機能的にするなどプラスの行動変容が確認されており、研修で身に着けた知識・技術を実践している様子がうかがえた。</p> <p>「持続可能な開発目標(SDGs)に該当する目標における成果</p> <p>本事業は、目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に貢献した。</p> <p>具体的には、老朽化した校舎で限られた学校設備品を共有して勉強していた子どもたちが、本事業で整備した学習環境の中で安全に勉強できるようになった。また、整備された学習環境を住民及び保護者たちで維持管理し、改善する取り組みを続けることで、子どもたちの継続的な学習の機会を保障する。さらに、保健衛生・栄養改善研修の講師を保健省のスタッフに依頼したことにより、それまで保健省のスタッフが訪れていなかった村との関係性が構築できた。今後保健省のスタッフが村を訪問し、保健推進員や住民が保健衛生に関する知識やアドバイスを受けることで、彼らの生涯学習の機会を促進することが期待される。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 教育啓発ワークショップ</p> <p>教育啓発ワークショップで話し合った村の教育問題に対する活動案をSMCと協議・計画・実施し、具体的な活動に結び付けることで、事業終了後も住民が主体的に教育問題を考え、分析し、行動していく能力を培った。</p> <p>(イ) 学習環境の整備</p> <p>弊団体のエンジニアが、SMCに対し建設物の維持管理のための研修を行った。なお、研修で使用した視覚教材は学校に掲示されており、普段から目に触れるようになっている。加えて、本事業のロジスタッフがソーラーや学校設備品の使用及び維持管理方法を説明し、事業終了後もSMCが維持管理できる体制を整えた。また、破損や損壊に気づいた際には、校長がSMCに報告し、SMCが対応する。なお、校舎等の学校施設の清掃については、教師と児童・生徒で構成される5つのグループを作り、毎日清掃をして学校環境の維持管理に努めている。さらに、各SMCが作成した維持管理計画書には資金調達計画も含まれており、事業期間の中ですでに実施している。上記により、事業終了後も学校・SMC・住民により継続的に維持管理できる体制が整えられた。</p> <p>(ウ) 保健衛生・栄養改善研修</p> <p>研修後に選出した保健推進員が保健衛生・栄養のアドバイザーとなり、保健省から派遣されるスタッフが村を訪問し検診などを行う際には同行し、サポートする。本研修を通じて保健省と関係性を築くことができ、これまで保健省が検診に訪れていなかったヤチャ村にも、今後保健省が検診に訪れるように住民自ら調整を開始した。なお、保健省が本研修を全国紙で紹介したことからも、保健衛生及び栄養状態の改善を重要視していることがうかがえ、今後も保健省と村及び保健推進員の協力体制の継続が期待できる。</p>